



高齢者への認知症スクリーニング検査実施件数

認知症患者への医療提供において、重要となるのが「早期発見・早期治療」です。

本指標は65歳以上の退院患者の認知症スクリーニング検査（長谷川式検査）の実施状況を示しています。20点以下で、認知症の可能性が高まるとされています。また認知症であることが確定している場合は、20点以上で軽度、11～19点の場合は中等度、10点以下で高度と判定します。また、どのような認知機能の障害かを判定するために、どの項目で失点したかの記載も必要となります。

長谷川式検査の点数と認知症の程度の目安

20点以上	軽度認知症
11～19点	中等度認知症
10点以下	高度認知症

<当院の状況>

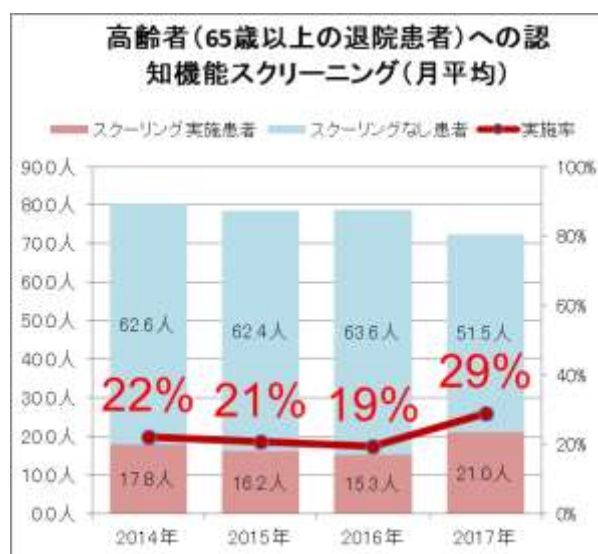
今年の実施割合は2016年19%⇒29%に大きく増加しました。

当院では2016年より認知症対応の強化を法人全体で取り組み病棟においても、回復期リハビリ病棟を中心に「ユマニチュード」を導入。病棟内に認知症グループを新設。2017年10月以降は週1回の精神科カンファレンスも再開しました。これらの取り組みにより、2017年は4年間で最も高い29%となりました。

高齢者への認知症スクリーニング実施割合

分子	内、認知症スクリーニング検査を実施した患者
分母	65歳以上の退院患者(4日以上在院)

表示：月平均



<外来の認知症検査実施件数>

認知症検査実施件数をみると、入院の実施件数は増加傾向にあります。外来では大きな増減がありません。

積極的な取り組み体制の構築が必要です。



<退院患者における定期認知症検査実施状況>

当院では年に複数回再入院を繰り返す患者が一定数いらっしゃる為、単純な対退院件数比率では現状を把握できません。また、これらの患者も含めて、定期的な検査の実施により、医師・看護師のカンに頼らない根拠に基づいた評価で早期の認知症発見・介入を行えるようにする必要があります。

1年間に退院した患者について、複数回入退院を繰り返しても1患者を1とカウントし、退院患者における退院時1年以内の認知症検査実施の有無をみると、毎年、実施率が上昇し2017年は40%

となりましたが、まだまだ十分な数値とはいえません。

今後とも更に検査実施率を上げる取り組みを行い、認知症患者への早期適切な医療提供をおこなっていきます。

